

第二外国語としての韓国語における 学習者のニーズについて — 韓国文化への興味・関心と学習動機に注目して —

ヤン・ジョンヨン

要 旨

第二外国語科目の中から「韓国語」を選択する動機やニーズにはどんなものがあるのだろうか。先行研究では、「会話」や「旅行」などへのニーズが非常に高いことが指摘されている（都2013、崔2016、大橋・高嶋2018）。しかし、筆者の調査ではこれらに加え、ポップカルチャーについてのニーズが高いことがわかった。このような学習者のニーズを踏まえた第二外国語教育は学習動機や意欲に大きく関わる可能性がある。

本稿は、第二外国語としての韓国語を履修する学習者のニーズ調査と分析を通じて、今後の授業計画への反映を試みようとするものである。

キーワード：第二外国語科目、韓国語、学習者のニーズ

The Learners' Needs of Korean as Second Foreign Language — Focusing on interest in and motivation for learning Korean culture —

YANG Jung-yun

Abstract

What are the motivations and needs for students to choose Korean among second foreign language subjects? Previous researches indicated that the needs in the fields of “conversation” and “travel” were very high (Do 2013, Choi 2016, Ohashi and Takashima 2018). In addition to these study results, the author's study found the needs in pop culture was high as well. Second language education which takes into account the learners' needs may affect their motivation and enthusiasm for learning.

The purpose of this paper is to investigate and analyze the needs of learners who take Korean as second foreign language and reflect the study results in future lesson plans.

Key words : Second foreign language class, Korean language, learner's needs

I. はじめに

大学学部生の中で、自身が所属する学部・学科のディプロマ・ポリシーを深く理解し、それを達成するためのカリキュラム・ポリシーに則って各学期で開講されている科目の位置づけや意義を明確に意識化した上で、授業に臨んでいる学生は、果たしてどれほどいるのであろうか。特に、その科目が自身の専攻する専門科目ではなく、選択や選択必修の教養科目や外国語科目であれば、「単位を取らなければならないから」という理由で履修する学生が一定数以上いることは、想像にかたくない。筆者が担当する選択必修の第二外国語科目「韓国語¹⁾」でも、そのような受講者が少なからずいることは経験的に認識している。

しかし、そのような学生でも、複数ある第二外国語科目の中で「韓国語」を選択するには、何らかの動機・理由があるはずである。先行研究においても、例えば、都（2013）は、韓国語学習者の対する意識調査で、学習を始めて間もない新規生の学習目標として「旅行に役立つ」韓国語が多いことを指摘している。また、崔（2016）は、韓国語学習者のピリフ調査の文脈ではあるが、韓国語を学習する動機と目標として、韓国に行って韓国語を使ってみたいと考えている学生が多くいることを指摘している。また、大橋・高嶋（2018）でも多くの先行研究で「会話」「旅行に使える」などへのニーズが非常に高いことが指摘されている。

この「旅行」や「会話」への関心の高さは筆者が担当する韓国語の学生のニーズとも合致する。これまで筆者も授業における学生とのやり取りを通じて、学生のニーズを聞き取り、できる限りそれを授業に反映させるように心掛けてきたが、その中では「旅行」や「会話」と同等かそれ以上にK-popや韓国ドラマなどのポップカルチャーについてのニーズが高いという実感があつた。2020年度前期は、オンライン化によりインターネットを介したデバイスを用いた授業を行うことになったこともあり、履修者に対しニーズ調査のための7項目のアンケートを行った。その中の質問4「韓国語を履修しようと思った理由は何ですか」には、回答者37名（複数回答）のうち、半数以上の23回答が「韓国のポップカルチャーに興味があるから」で、次いで17回答が「韓国語が面白そうだから」であった。これ以外の質問項目への回答からも、最近の履修者は「韓国のポップカルチャー」への興味・関心の方が高いということがわかる。学習動機や意欲を維持するために学生のニーズをどのように授業に反映させていくのかは、もともと韓国語に興味・関心のある学生はもちろん、単位のために履修しようと思った学生のためにも重要な問題で、教師に課された大きな課題であろう。

本稿は、第二外国語としての韓国語を履修する学習者のニーズ調査と分析を通じて、今後の授業計画への反映を試みようとするものである。本稿の構成は、まず次のⅡ節で、高崎経済大学の第二外国語の開講科目と履修の仕方について概観しその特徴や条件を確認した上で、Ⅲ節ではニーズ調査として実施した学生へのアンケートの方法や内容を述べ、ニーズ分析を行う。そして、Ⅳ節でこれらの韓国語学習者のニーズを今後の授業にどのように活かすことができるか考える。

Ⅱ. 高崎経済大学における第二外国語の開講科目と履修の仕方

高崎経済大学は経済学部と地域政策学部の2学部が設置されているが、いわゆる第二外国語科目²⁾としては、中国語・ハンゲル・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語の6言語が開講されている。外国語学部系や国際学部系ではなく、社会科学系の学部として6言語の開講とは充実した第二外国語科目と言えよう。それぞれの言語は、中国語が「中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語Ⅳ、中国語Ⅴ、中国語文献購読Ⅰ、中国語文献購読Ⅱ」の7科目、韓国語が「ハンゲルⅠ、ハンゲルⅡ、ハンゲルⅢ、ハンゲルⅣ」の4科目などのように、6言語でそれぞれ4～7科目開講されている。これらの科目は、共通開講（高崎経済大学での名称は「一元化」開講）で、同じ授業に両学部の学生が混在している。

第二外国語科目の開講科目と履修の仕方は、それぞれの学部で異なっており、少し複雑であるが、それぞれに分けてみていく。

Ⅱ. (1) 両学部の開講科目

経済学部では、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語の4言語はⅠからⅤまで、イタリア語・ハンゲルの2言語はⅠからⅣまであり、ドイツ語・フランス語・中国語の3言語は文献購読も2科目開講している。地域政策学部では、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・ハンゲルの6言語がそれぞれⅠからⅣまでで、上のレベルである文献購読は開講されていない。

表1 両学部で開講されている第二外国語科目

科目	経済学部	地域政策学部
ドイツ語Ⅰ～Ⅳ	○	○
ドイツ語Ⅴ	○	×
ドイツ語文献購読Ⅰ～Ⅱ	○	×
フランス語Ⅰ～Ⅳ	○	○
フランス語Ⅴ	○	×
フランス語文献購読Ⅰ～Ⅱ	○	×
中国語Ⅰ～Ⅳ	○	○

中国語Ⅴ	○	×
中国語文献購読Ⅰ～Ⅱ	○	×
スペイン語Ⅰ～Ⅳ	○	○
スペイン語Ⅴ	○	×
イタリア語Ⅰ～Ⅳ	○	○
ハンゲルⅠ～Ⅳ	○	○

Ⅱ. (2) 第二外国語科目の履修の仕方

経済学部は、教養教育科目の中の選択必修の「言語系科目（いわゆる第二外国語科目）」として、経済学科・経営学科では3科目（6単位）、国際学科では5科目（10単位）の選択必修となっている。つまり、経済学部では、いわゆる第二外国語が選択必修となっており、上記の6言語の中から3科目（6単位）または5科目（10単位）を履修しなければならない。

一方、地域政策学部では、教養教育科目、専門教育科目を含めたすべての開講科目の中の「自由選択科目」として、5科目（10単位）の選択必修となっている。従って、この学部では、教養教育科目や専門科目で5科目（10単位）履修することも可能であるので、第二外国語をまったく履修しない学生もいる。

表2 第二外国語科目の履修の仕方

学部	学科	第二外国語の履修の仕方
経済学部	経済学科 経営学科	「言語系科目（いわゆる第二外国語科目）」として、6単位（2単位×3科目）選択必修
	国際学科	「言語系科目（いわゆる第二外国語科目）」として、10単位（2単位×5科目）選択必修
地域政策学部	地域政策学科 地域づくり学科 観光政策学科	いわゆる第二外国語科目以外の科目も含めた「自由選択科目」として、5科目（10単位）の選択必修

このような履修の仕組み・条件があるためか、筆者の担当する「ハンゲル」でも学生の履修動機には様々なものがある。これまでの一般的な傾向としては、「自由選択科目」としてすべての開講科目の中で「ハンゲル」を選択する地域政策学部の学生は、履修者の総数は少ない（例年、全体の1/10～1/4程度）ものの、高い動機づけの学生が多い。一方、「第二外国語」が選択必修である経済学部の学生は、履修動機の高い学生からそうではない学生まで幅がある。ガイダンス時のアンケートでは、「単位を取るため」という理由で「ハンゲル」を履修する学生も数名いる。このようなコースのスタート時点における動機の高低差を踏まえて、学習意欲をどう高めるか、また、維持していくかは、第二外国語の担当教員の共通の課題と言えよう。

以上のような条件・制約がある中で、今回のニーズ調査を今後の授業計画にどのように活かせるについてはⅣ節で述べる。

Ⅲ. ニーズ調査「韓国語学習についてのアンケート」

ここでは、2020年度前期の授業で、ニーズ調査として実施した学生へのアンケートについて、その実施方法と内容を示し、結果の分析を行う。

Ⅲ. (1) ニーズ調査「韓国語学習についてのアンケート」の実施方法と内容

韓国語学習のニーズ等については、これまでの対面授業の際には、授業時に学生たちに直接聞いていた。韓国語学習のきっかけや韓国についての興味・関心を聞いて、必要に応じて授業で紹介・解説したり、適宜取り上げたりしていた。今期は、オンライン授業になり、その都度聞くことは難しいと判断したので、「韓国語や韓国に関する興味」についてのアンケートを実施することにした。

表3 韓国語学習についてのアンケートの実施方法

実施時期	2020年5月11日（授業の初回）	使用ツール	Microsoft Forms
回答期限	2020年5月18日	回答数	履修者40名中、37名

実施時期は授業の初回で、回答期限は1週間で設定した。成績などの評価とは無関係であることを明示した上で、Microsoft Formsで作成したアンケート（7項目の質問）を配信した。アンケートの内容は以下の通りである。

表4 「韓国語学習についてのアンケート」の内容（7項目の質問と回答方法）

1	質問1	韓国語を学ぶのはこの授業が初めてですか。
	選択肢(二つ)	①はい ②いいえ
2	質問2	1の質問で「いいえ」の場合、どんな方法でどのくらいの期間勉強していますか（韓国語教材で／独学で／NHKでなど、～ヶ月／～年など）。
	自由記述	[自由記述]
3	質問3	1の質問で「いいえ」の場合、レベルはどれくらいですか（自己評価・自己判断で構いません）。
	選択肢(四つ)	①初級 ②初中級 ③中級 ④上級
	自由記述	[自由記述]
4	質問4	韓国語を履修しようと思った理由は何ですか（複数回答可／その他は自由記述）
	選択肢(四つ)	①韓国語が面白そうだから ②韓国の文化・歴史。文学などに興味があるから
		③韓国のポップカルチャー(K-pop、ドラマ、映画、グルメなど)に興味があるから
		④必修科目だから／単位のため
自由記述	[自由記述]	

5	質問5	韓国語を学んだらどのように活用したいですか（特に活用したいところを一つ選んでください／その他は自由記述）
	選択肢(四つ) 自由記述	①韓国語を使ってコミュニケーションを図りたい ②韓国の文化・歴史・文学の学びや研究に役立てたい ③韓国のポップカルチャーをより深く楽しみたい ④特に活用する予定はない [自由記述]
6	質問6	韓国語を活用したい「場面・状況」は何ですか。 (例えば、韓国旅行での買い物、K-popの歌詞の意味を知りたい、ドラマの台詞の意味を知りたいなど)「場面・状況」を具体的に教えてください。
	自由記述	[自由記述]
7	質問7	韓国の文化・歴史・文学やポップカルチャー（K-pop、映画、ドラマ、グルメなど）について、面白いと思うものは何ですか（例えば、「○○」という韓国の歌で、その理由は～～だから など）。面白いと思う「内容と理由」を教えてください。
	自由記述	[自由記述]

この「韓国語学習についてのアンケート」に対して、40名の受講者から37の回答を得た。その結果を次のⅢ節（2）で検討する。

Ⅲ.（2）ニーズ調査「韓国語学習についてのアンケート」の回答結果

まず、「韓国語学習についてのアンケート」の回答結果を示す。

◆回答結果1（レディネス調査に関する質問1～3）

まず、質問1～3について見ていくが、この質問1～2はニーズではなくレディネスを調査したものである。

質問1	韓国語を学ぶのはこの授業が初めてですか。 →回答 ①はい ②いいえ
-----	--------------------------------------

回答は、①はい：31、②いいえ：6であった。質問1の結果から、回答者の37名のうち、すでに韓国語を学んだ経験がある学生が6名いることがわかる。その韓国語学習歴のある学生が質問2と質問3に回答してくれた。

質問2	1の質問で「いいえ」の場合、どんな方法でどのくらいの期間勉強していますか（韓国語教材で／独学で／NHKなどで、～ヶ月／～年など）。
質問3	1の質問で「いいえ」の場合、レベルはどれくらいですか（自己評価・自己判断で構いません）。韓国語を履修しようと思った理由は何ですか（複数回答可／その他は自由記述）

二つの質問への回答は以下の6例の記述があった。次の表の質問2と質問3の左右の欄は、同じ学生からの回答である。また、質問3の「レベル」はあくまで自己申告によるものであり、統一のレベルチェックテスト等で確認したものではない。

第二外国語としての韓国語における学習者のニーズについて

	質問2 期間や学習方法	質問3 レベル
学生A	YouTubeや韓国語教材で一ヶ月間ハングルだけを勉強しました。	初級
学生B	高校生の時一年間ほど韓国語教室に行っていました。受験前にやめてしまって期間があいたのであんまり覚えていません。	初級
学生C	高校の授業で1年間	初級
学生D	独学で2年くらい	初中級
学生E	独学でやりました(と言っても単語をかいつまんでやっていたくらいです)	初中級
学生F	独学で	初中級

学習期間は1ヶ月から2年まで幅があり、学習方法も独学、韓国語教室、高校の授業など様々である。レベルは、初級が3名、初中級も3名であった。しかし、このレベルに関しては、自己申告ではあるため、学生Aのように、独学で期間1ヶ月の「初級」と、学生Bと学生Cのように、韓国語教室や高校の授業で1年間の「初級」とでは、大きな違いがあると思われる。いずれにせよ、37名中6名はまったくの初学者ではないということわかる。

◆回答結果2（ニーズ調査に関する質問4～7）

ニーズについて具体的に調査したのは、質問4～7である。これらを順に見ていく。

質問4は、韓国語を履修しようと思った理由を問うもので、昨年までの授業で学生からの返答が多かった4つの選択肢①～④とそれ以外の可能性を考え、自由記述を加えた。

質問4	韓国語を履修しようと思った理由は何ですか（複数回答可／その他は自由記述）
-----	--------------------------------------

・質問4への回答結果（回答数の多いもの順に並び替え）

③韓国のポップカルチャー（K-pop、ドラマ、映画、グルメなど）に興味があるから	23
①韓国語が面白そうだから	17
②韓国の文化・歴史・文学などに興味があるから	7
④必修科目だから／単位のため	6
[自由記述] ・日本に観光にくる韓国人は多いので、将来困っている人たちを助けてあげられるように少しでも日常会話くらい話せればいいなと思ったから ・学んだことがあるため ・韓国人の友人と韓国語で話したかったから ・韓国に旅行する予定があったから	4

複数選択可能なので合計43回答であるが、半数以上の23回答が③「韓国のポップカルチャー」であり、この分野への関心の高さがあらためて明確になった。また、17回答の①「韓国語そのものへの関心」も少なくなかった。7回答の②「韓国の文化・歴史・文学」は、韓国ドラマや最近多く翻訳出版されている韓国の小説、韓国映画のアカデミー賞受賞（『パラサイト』）などが影響しているのであろう。しかし、6回答の④「必修科目だから／単位のため」と回答数はあまり変わらないことから、すべての学生が、韓国語や韓国文化に何らかの興味・関心を持って履修し

ているわけではことがわかる。

次の質問5は、韓国語をどのように活用するつもりかを問うもので、昨年までの授業で学生からの返答が多かった4つの選択肢①～④に自由記述を加えた。

質問5 韓国語を学んだらどのように活用したいですか（特に活用したいところを一つ選んでください／その他は自由記述）

・質問5への回答結果（回答数の多いもの順に並び替え）

①韓国語を使ってコミュニケーションを図りたい	15
③韓国のポップカルチャーをより深く楽しみたい	15
④特に活用する予定はない	5
②韓国の文化・歴史・文学の学びや研究に役立てたい	2
自由記述	0

一つだけの選択なので合計37回答であるが、①「韓国語を使ってコミュニケーションを図りたい」と③「韓国のポップカルチャーを楽しみたい」という回答がそれぞれ15で、この二つで合計30回答となった。コミュニケーションを図りたいということは、韓国語を使った双方向のやり取りを行いたいということを含意し、ポップカルチャーは歌詞や字幕を聞いたり読んだりといった受容系のスキルを身に付けたいということを含意していると考えられる。一方、④「特に活用する予定はない」も5回答あったが、興味深いのは、このうち4名が質問4で①「韓国語が面白そうだから」を選択している点である。つまり、特に活用する予定はないが、韓国語が面白そうだから、韓国語を履修しているということである。なお、2名は質問4で④「必修科目だから／単位のため」を選んでいった（質問4は複数回答なので、④が2名に選ばれている）。

次の質問6は、韓国語を活用したい具体的な「場面・状況」を問うもので、自由記述とした。

質問6 韓国語を活用したい「場面・状況」は何ですか。
 （例えば、韓国旅行での買い物、K-popの歌詞の意味を知りたい、ドラマの台詞の意味を知りたいなど、「場面・状況」を具体的に教えてください。）

・質問6への回答結果（自由記述を6つに分類し、回答数の多いもの順に並び替え）

韓国語を活用したい「主な場面・状況」	回答数
旅行に関するもの（会話、買物、レストランでの注文、観光など）	20
K-popの歌詞等に関するもの（理解、聞き取り、インタビューなど）	14
交流・友人関係に関するもの（友だち作り、友人との会話）など	4
映画・ドラマの台詞に関するもの（意味、字幕なしの視聴）など	3
バラエティ番組での発言に関するもの（番組での発言の理解）など	2
漫画に関するもの（韓国語の漫画の読み取り）	1

複数回答で44の回答が得られた。そのうち、20回答が「旅行に関するもの」で、14回答が「K-popの歌詞に関するもの」であり、この2つが全体の約77%を占める。以下、大きく離れて、「交流・友人関係に関するもの」が4回答、「映画・ドラマの台詞に関するもの」が3回答、「バラエティ

での発言に関するもの」が2回答、「漫画に関するもの」が1回答であった。

最後の質問7は、「韓国の文化・歴史・文学やポップカルチャーについて」どんなものに興味・関心のあるかとその理由を問うもので、自由記述とした。

質問7 韓国の文化・歴史・文学やポップカルチャー（K-pop、映画、ドラマ、グルメなど）について、面白いと思うものは何ですか（例えば、「○○」という韓国の歌で、その理由は～～だから など）。面白いと思う「内容と理由」を教えてください。

・質問7への回答結果（自由記述を7つに分類し、回答数の多いもの順に並び替え）

韓国に関する「興味の対象」	回答数
K-pop（特定のアイドルグループ、ダンス、ビジュアル、歌唱力）など	22
映画・ドラマ（特定のドラマ・映画、人物設定、ストーリー展開）など	12
食文化（辛いもの、特定の韓国料理、食べ歩き）など	3
バラエティ番組（特定の番組名、番組の内容）など	2
日韓関係（韓国側の意見も自分で解釈できたら面白そうだ）	1
コスメ・服飾（日本よりも値段が安く、可愛いものが多い）	1
わからない	1

複数回答で42の回答が得られた。そのうち、半数以上の22回答が「K-pop」で、約1/4の12回答が「映画・ドラマ」であり、この2つが全体の約80%を占める。以下、大きく離れて、「食文化」が3回答、「バラエティ番組」が2回答、「日韓関係」が1回答、「コスメ・服飾」が1回答、「わからない」が1回答であった。

Ⅲ. (3) ニーズ調査「韓国語学習についてのアンケート」の分析

ここでは、質問6と質問7で得られた自由記述を分類・整理し、キーワードを抽出しながら、それぞれのニーズを具体化していく。

質問6と7はどちらも授業で扱う具体的な言語表現に反映させるためのニーズを調査するためのものであるが、質問6は特に産出系（話す、読む）のニーズを調査する目的で、質問7は特に受容系（聞く、読む）のニーズを調査する目的で設けたものである。

Ⅲ. (3) a 「韓国語を活用したい場面・状況」についての分析

質問6は、活用したい場面・状況を問うことで、実際に自分が話したり書いたりしたいことを問っている。ここでは、質問6に対する計44の回答のうち、回答数の多かった二つ「旅行に関するもの（20回答）」と「K-popの歌詞に関するもの（14回答）」を中心に見ていく。まず、最も多かった「旅行に関するもの」計20回答を下位項目に分けると以下ようになる。

・「旅行（計20回答）」の下位項目

下位項目	買物	会話	注文	指定なし
回答数	8	6	2	4

買物が8回答と最も多かったが、自由記述の内容を見てみるとすべて「買物」としかない。従って、具体的な場面・状況を想定しているわけではなく、「買物」をする際、韓国語がわからないと困るだろうから、旅行で韓国に行く前に学んでおけたらいいなという漠然とした想像によるものであろう。韓国語教育や日本語教育では、「買物」を扱う課の学習項目としては、数量（お金の数え方、個数や助数詞など）の表現、属性形容詞（大きい／小さい、思い／軽い、高い／安い、白い／赤い／青いなどの色など）、存在表現（「場所に物がある」）などが定番であり、具体的には、「これはいくらですか？」「その～を三つください。」「～はどこにありますか？」「もっと小さいものはありますか？」などが挙げられる。しかし、実際の言語行動を考えると、買物では言語的なやり取り（質問と答え）はあまり用いられていない。買物の代名詞とも言える「これはいくらですか？」も、観光客が買物をするような土産物店や免税店では商品の金額はウォンでもドルでも円でも表示されており、スーパーやコンビニエンスストアでもほとんどがウォンでの表示がある。従って、地元の人々しか行かないような市場や個人商店など以外ではほとんど使う場面はないと言える。これに対し、回答数は2と多くはないが、「注文」の方が言語的なやり取りが必要な場合や文字を読まなければならない場面が多いと言える。店員を呼ぶ際には、日本語で言う「あの一」や「すみません」にあたる切り出し表現が必要であり、メニューに写真などがなく文字だけの場合は、「これは何ですか？」や「どんな料理ですか？」のような料理の種類や材料を聞く表現も必要となるだろう。また、ハングルを読まなければならない場面は、文字だけのメニューだけでなく、店の看板、店内の案内表示、支払いに関する注意書きなど数多く考えられる。このように飲食店での「注文」のほうが言語教育で取り上げるべき項目が数多くあると言えよう。

二番目に多かった「会話」だが、これも、漠然とした内容が多かった。6回答のうち、4回答が「韓国旅行で現地の人と会話してみたい。」「現地の人と簡単な会話がしたい。」「韓国への旅行などで韓国の方と話してみたい。」「韓国旅行をするとき、韓国人の友達を作りたい。」というものだった。大学生が1人旅や2～3人の少人数で外国旅行に行った場合、買物や飲食店以外で、まったく知らないその国の人々にどんなきっかけで話すのであろうか。また、話し始めたとして、どんな内容の会話になるのであろうか。これらのニーズも具体的に考えてみると、漠然としているだけでなく、実際にはそのような場面・状況自体がほとんどないことがわかる。しかし、残りの2回答の「観光に来た韓国人が困っているとき。」と「旅行、喧嘩する場合、道を案内するとき。」は、具体的な場面・状況が想定できる。自分が旅行で韓国に行く場合も、韓国人が旅行で日本に来た場合も、困っている場面・状況としては、「目的地の場所や道順を尋ねる」、「売り場を尋ねる」などが考えられる。これらは、話し手に何らかの目的（例えば目的地の道順を知りたい）があり、その目的を達成する（道順がわかる）ためのいわゆる「交渉会話」である。この交渉会話は、話し手に自分が必要な情報を手に入れたいなどの目的、つまり、話す動機が明確で、情報を手に入れるというゴールがある会話であり、ゴールにたどり着けばその会話は終わる。従って、初級の

授業の中でも、語彙や文型をうまく組み合わせれば、このような交渉会話を取り入れることは可能である。これに対し、同じ会話でも、知らない人とではなく知っている人との間で、日常的に行われる人間関係の維持に関わるものは「交流会話」と呼ばれる。交流会話は、「おはよう／おはよう」などの挨拶、「今日暑いね／そうだね」や「毎日大変だね／いえいえ」などの隣接ペアなどを伴うスモールトークにあたるものである。一般的な言い方では「雑談」とも言われるが、この交流会話は言語を通じた人間関係・友好関係の維持には大きな役割を果たす。しかし、前提として、家族以外では友人や知人など「知っている人」同士の会話なので、旅行で初対面の人と交わす会話ではない。このようなことから、回答例に多かった「韓国旅行で現地の人と会話してみたい」というニーズにおける会話は、旅行という場面・状況を想定した「交渉会話」という形で具体化できると思われる。

・「K-pop（計14回答）」の下位項目

下位項目	歌詞を理解したい	発言を聞き取りたい	SNSを読みたい
回答数	9	4	1

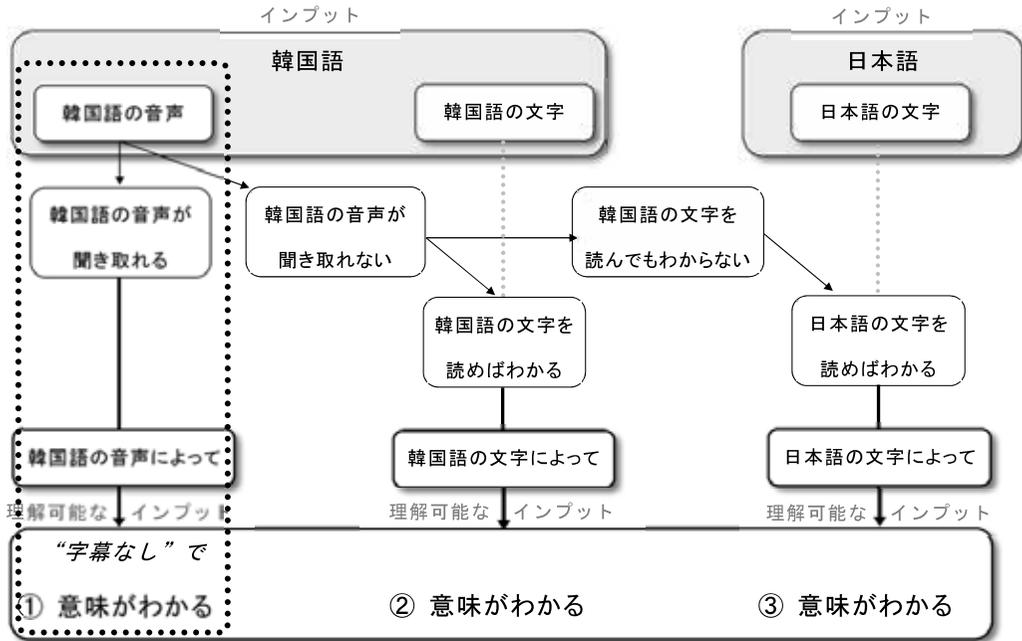
「歌詞を理解したい」が最も多かったが、このうち2回答が「字幕なしで意味がわかるようになり」というものであった。また、4回答の「発言を聞き取りたい」も、表面的には書かれていないが、「字幕なしで」という意味のようである。実際の記述は、「K-popアイドルグループのメンバーが言っていることを、理解できるようになりたい。」、「K-popアイドルの生配信を理解して聞けるようになりたい。」、「生放送で韓国アイドルが話していることを理解したい。」、「VLIVEでK-popアーティストがなにを話しているのか理解できるようになりたい。」であった。アンケートの後、学生に尋ねたところ、生配信やLiveでは字幕が付いていない場合が多いためとのことであった。さらに、他の分類だが3回答の「映画・ドラマの台詞に関するもの」と2回答の「バラエティ番組での発言に関するもの」でも、「字幕なしで見られるようになりたい。」という記述があり、これらを合わせると、「字幕なし」で歌詞や台詞や発言の意味を理解したいというニーズが高いことがわかる。しかし、この「字幕なしで意味がわかる」とは、言語理解的には非常に難しいことである。以下の図で見ると、「字幕なし」で意味がわかるのは、左端の破線の囲みで示した言語理解の過程を経なければならない。

具体的にK-popアイドルが「とてもおいしいですね」と韓国語で発した場合の三通りの「意味がわかる」過程を見ていくが、このうち“字幕なし”で意味がわかるの①のみである。

①の「意味がわかる」は、話し手からの韓国語の音声[adʒu mafinnejo]がインプットとなり、聞き手はこの音声を既に習得している語彙の意味と文法の組み合わせと結びつけて、《아주 맛있네요》であると認識する（ただしこれは文字ではなく、言語形式である）。そして、その韓国語の音声を介して得られた言語形式を日本語の意味「とてもおいしいですね」に変換して初めて意味が理解できる。この過程では、言い換えれば、韓国語の音声のみによって韓国語の言語形

式を意識化し、瞬時に日本語の意味に変換しなければならない。同じく[adzu mafinnejo]というインプットであっても、その音声が聞き取れなかったり、聞き取れたとしても語彙や文型の習得が進んでいないと、「なんか韓国語で言っている」ということになってしまう。つまり、インプットが「理解可能なインプット」とはならない。

図1 “字幕なし”で意味がわかるとは



では、聞き取りの能力が低かったり、語彙や文型の習得が進んでいなかったりする場合は、どのように意味がわかるにたどり着けるのだろうか。これには②と③の二通りの過程が考えられる。順に説明する。まず、②の「意味がわかる」過程を考える。これは上の図の真ん中の過程で示したように「韓国語の文字」によって意味がわかるというものである。この場合は、聞き取れなかった韓国語の音声の代替手段として韓国語の文字を用いている。つまり、[adzu mafinnejo]という音声による聞き取りはできなくても、それに替わる文字「아주 맛있네요」で韓国語の言語形式を呼び出し、その意味を日本語で理解するという手順である。この過程で必要なのは、ハングルを読むという文字に関する言語知識である。つまり、言語形式としての《아주 맛있네요》が音声ではわからなかったが文字ではわかったということである。ここまで説明した二つの過程は音声か文字かは異なるものの、いずれも《아주 맛있네요》という言語形式を理解できる韓国語の語彙や文型の習得が済んでいるという共通点がある。しかし、③の「意味がわかる」は、韓国語の言語知識をまったく使っていないことがわかる。右端の過程は、韓国語の音声は聞くものそれが理解可能なインプットとならず、韓国語で何か言っているようだという理解しかならない。

そこで、その発話の際に示される“日本語”の字幕を読んで、“日本語”の意味を理解する。つまり、日本語の字幕を読んで日本語の意味を理解しているということにしかならない。

ニーズ調査に答えてくれた学生、つまり、「ハングル I」を履修した学生は、ほとんどがこの③の過程でK-popや韓国のドラマなどを楽しんでいるものと思われる。その学生たちのニーズである「“字幕なし”で意味がわかる」にまで韓国語能力を上げるには、高度な語彙や文型に関する言語知識と、音声の聞き取りに関する言語技能や言語処理の速度を高めていかなければならない。従って、次節でも述べるが、K-popの1曲まるごと、また、ドラマの1話まるごとを“字幕なし”で理解することは、初級の22.5時間の授業時間ではほぼ不可能である。

しかし、例えば、曲の“サビ”やドラマの有名な台詞など、短い表現や1文であれば扱うことができる可能性がある。部分的だが、サビや有名な台詞だけでも学習動機を高めることにつながるのであれば、それらを扱うことも有効であろう。また、文字に関しては、「SNSで発信する言葉や、同じファンたちが動画に対して残すコメントなどを読めるようになりたい」という要望があった。これも、限定的に取り入れれば、文字を読むということへの動機づけになるであろう。

Ⅲ. (3) b 「韓国の文化・歴史・文学やポップカルチャー」についての分析

質問7「韓国の文化・歴史・文学やポップカルチャーについて、面白いと思うものは何ですか」は、具体的な言語使用場面ではなく、面白いと思うこと、興味・関心のあることを引き出し、それを読解や聴解の素材に活かそうという狙いがある。多くの初級のテキストでは、「旅行、買物、道案内」での会話例が多く、「韓国の文化・歴史・文学やポップカルチャー」に関する内容はほとんど扱われていない。従って、学習者が読んだり聞いたりして楽しいと思うことを調査し、それを学習素材として組み込めるのではないかと考えた。結果は計42回答のうち、22回答が「K-pop」と12回答が「映画・ドラマ」であり、「韓国の文化・歴史・文学」に関する記述は、まったくなかった。不思議なことに質問5の「韓国の文化・歴史・文学の学びや研究に役立てたい」と回答した2名も質問7では「韓国の文化・歴史・文学」についてのコメントがない。

韓国語を学んだら「韓国の文化・歴史・文学」をこれからの学びに役立てたいのに、面白いと思う興味・関心があることには該当しないということはいったいどのように解釈すればいいのだろうか。今回のアンケートは調査後に個人々人へのインタビューなどを実施しなかったため詳細について知ることはできないが、想像できることは、いま現在韓国の文化や歴史などについての知識や情報が乏しいのではいかと推察される。メディアやインターネットで簡単に目にするのできるポップカルチャーは多くの学生に韓国への興味を持たせてくれるが、残念ながら、その「いまの文化」だけで止まってしまい、「伝統的な文化」にまで十分にアクセスできていないのではないだろうか。これらの情報が不足しているのであれば、授業の際に、いまより積極的に韓国の伝統的な文化・歴史・文学について伝えていくことで、新たな興味・関心の領域を広げ、言語のみならず文化への学習動機を高めることができるかもしれない。

以上、Ⅲ節ではニーズ調査の実施方法・内容・結果・分析についてみてきた。次のⅣ節では、これら韓国語学習のニーズを今後の授業にどのように活かすことができるか考えていきたい。

Ⅳ. ニーズ分析を踏まえた今後の授業改善

学習者のニーズを授業に反映させることは学習動機や意欲の向上・維持に効果的だと考えられる。しかし、学習者のニーズを授業内容に全て取り込むことは不可能で、反映できる部分とできない部分がある。学習者のレベル、人数、授業時間などはもちろん、大学での第二外国語科目としての外的な条件・制約もある。従って、まず、Ⅳ節（１）で、変更できない／変更しにくいものとして、Ⅱ節で示した履修上の仕組みを踏まえた本授業の条件・制約について確認した上で、Ⅳ節（２）で学習項目・シラバス・教材へのニーズの反映を考える。

Ⅳ.（１）条件・制約

まず変更することができないのは、「ハングルⅠ」の共通シラバスにある【目的】と【到達目標】である。以下、表１は「ハングルⅠ」の【目的】と【到達目標】である。

表５ 「ハングルⅠ」共通シラバスの【目的】と【到達目標】

<p>【目的】</p> <p>本授業は、韓国語を運用するために必要な基礎的な言語知識を学びながら、身近な話題(あいさつ、日常生活や学校生活、買い物や店での注文、好きなものごとなど)について伝え合うことができるような韓国語能力を養うことを目的とする。</p> <p>そのため、必要不可欠な文法規則はもちろんのこと、できるだけ自分にかかわる語彙数を増やし、その場に合った言い方(定型表現)の習得を目指す。また、表記に関しては、初回から４回目までにハングル文字の読み書きを身につけることを目指す。</p> <p>教室活動では、実際に韓国語を運用できることを目的としているため、ペア練習など応用練習を多く取り入れる予定である。</p>
<p>【達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国語の基本語彙や定型表現を用いながら、口頭でのやりとりを中心に、それを文字でも理解・表現できる。 母音と子音、合成母音、パッチムなどの韓国語のハングル文字の仕組みを理解し、読み書きができる。

この【目的】にあるように、「韓国語で身近な話題について伝え合う・語彙数を増やす・定型表現を習得する・韓国語を運用できるように練習などが多くある」と、学生たちのニーズとを照らし合わせ、合うものとそうでないものを分類して部分的に取り入れていくことが必要であろう。また、【到達目標】にあるように、「口頭でのやり取り中心、文字の読み書きも理解・表現できる」

も学生たちのニーズを照らし合わせ、教材や素材選びなどをしていく必要がある。

他にも、ニーズを叶えるためにはそれなりの学習の量と質が必要で、「字幕なしに韓国ドラマを楽しみたい」といったニーズがあっても、Ⅲ節(2)aで詳述したように、初級の韓国語授業でそれを叶えることは難しい。ある程度のレベルの調整を含めて授業計画を練り直す必要がある。いずれの理由であれ、シラバスに示されている【目的】と【到達目標】を維持しつつ、学期ごとに学生たちのニーズを調査し、それを突き合わせながら授業を進めていく必要があるため授業準備には大変時間を要することが予想される。

本授業の【目的】と【到達目標】を含め、Ⅱ節で述べた高崎経済大学における第二外国語科目と履修の仕方を踏まえると、第二外国語科目としての「ハングルⅠ」には以下A～Fのような条件・制約がある。このうち、AからCは第二外国語科目に共通するもので、DからFは特に「ハングルⅠ」における条件・制約である。

表6 第二外国語科目としての「ハングルⅠ」の条件・制約

A クラスサイズ：40名	B 授業時間：週1回90分×15回	C シラバス・テキストの統一化
D 既習者と未習者の混在	E レベルの調整	F 学習動機のばらつき

A「クラスサイズ」から順に見ていく。筆者が担当する授業は、定員40名で毎学期満員である。定員オーバーの場合は抽選が行われるが、対面授業の際にも毎回抽選をしていた。今学期は事前に事務局・教務チームによる調整が行われ40名と確定した状態で授業が開始された。語学のクラスサイズとして40名は非常に人数が多く、きめ細かな指導を行うのに適切な数ではない(20名以内が妥当と思われる)。しかし、他の第二外国語科目も含め、決められている制約であるため変更は不可能である。今後も40名のクラスサイズでいかに言語運用能力を向上させていけるか考える必要がある。

B「授業時間」の制約は、通常の対面授業と同様の制約で、予習・復習を除いた実際の授業の総時間22.5時間でできることは何かを検討しなければならない。教師が教える必要があると思われる内容や学生が学びたい内容を全て取り入れることはできず、時間の制約の中で身につけることができる学習項目に絞っていく必要がある。

C「シラバス・テキストの統一化」は、両学部で第二外国語科目が一元化(同時開講)されており、シラバスとテキストも各担当教員が同じものを使わなければならない。学生たちがどの教員の授業を履修して、可能な限り同じ能力を身につけられるように、教員同士の連携が必要となる。

D「既習者と未習者の混在」は、毎学期数名の既習者がいることである。今学期の「ハングルⅠ」でも、アンケートに回答してくれた37名のうち、6名が既習者、31名が未習者であった(既習者は自己申告ではあるものの、「初級」が3名、「初中級」が3名いた)。本授業は韓国語学習のゼロビギナー向けのものであるため、既習者のレベルに合わせることはできないが、学習に対す

る興味を失わないよう配慮しながら進める必要がある。

E「レベルの調整」は、最近の韓国語の履修者に特に見られる傾向であり、なかなか難しい問題である。Dの状況も踏まえ、レベル自体は未習者に合わせながら授業を進めていくが、既習者にも興味を持ってもらえるように配慮し、かつ、全体のニーズと現在の韓国語能力のギャップを埋めていくための工夫をしていかなければならない。例えば、「韓国語の歌やドラマを字幕なしで理解したい」「アイドルがSNSで書いていることを理解したい」といったニーズを叶えるには、音声と文字の両方の質と量を高めることが必要で、やみくもに「では、もっと勉強してください。」ではなく、「韓国語の音声（何を言っているか）」を理解するためには、理解可能なインプットを増やすといった、どの部分の学習に力を入れれば良いのかを明確に示すことが必要であろう。

F「学習動機の高ぶり」は、II節でも述べたように、第二外国語科目が必修か否かが大きく関わる。韓国のポップカルチャーや韓国語そのものなどに興味・関心があって履修する学生と、単位が必要で履修する学生とでは、学習に対する動機づけにどうしても差が出る。動機づけの高低に配慮しつつ、興味・関心が高くない学生にも少しずつ楽しいと思ってもらえるように、どのようにアプローチができるかを工夫する必要がある。

ここまで外的な条件・制約を見ながら、部分的に授業の改善に必要な事柄を述べてきた。次に、筆者が従来行ってきた「ハングルⅠ」の授業の実際について報告しつつ、その中でどのように学習者のニーズを反映させることが可能かについて考えていく。

IV. (2) 学習者のニーズを踏まえた「ハングルⅠ」の授業改善

筆者は昨年度末、高崎経済大学の第二外国語教育の担当教員から、テキストの選定とシラバスの作成を依頼され、上記の授業スケジュールの作成や『できる韓国語初級Ⅰ』の選定を行った。市販の韓国語教材は数多くあるが、本テキストを選んだ理由は、初級韓国語の基本的な言語知識（語彙や文法）が網羅されていること、第1課に入る前にハングル文字のセッションが独立していて扱いやすいこと、文字が大きく見やすいこと、値段が手頃で購入しやすいこと、YouTubeに著者による動画があり予習・復習に使えることなどの利点があるからである。群馬県内で韓国語授業を実施している国公立大学の全10校で使用されているテキスト全7冊³⁾を調べ、その中から最も使いやすいと判断した。

一方、現在市販されている初級韓国語の教材の多くは構造シラバスで作成されており、言語知識重視である。『できる韓国語初級Ⅰ』も例外ではなく、本文（会話例）で扱われている場面・状況がどのような人間関係の二人が対話しているのか不明な場合が多い。以下の表7は、「ハングルⅠ」の該当課の第1課から第10課までの各課のタイトルと場面・状況・言語知識をまとめたものである。

表7 『できる韓国語初級Ⅰ』 第1課から第10課までの内容

	各課のタイトル	場面・状況	言語知識（語彙・文型）
第1課	私は日本人です	あいさつ、自己紹介	名詞文
第2課	日本人ではありません	テレビを見ながら相撲選手が何人か聞く	名詞否定文
第3課	それは何ですか	指差しで何かを聞く（キムチかナムルか）	指示詞
第4課	約束があります	今日・明日、約束があるか聞く	存在文
第5課	会社はどこですか	会社の場所を聞く	存在文、位置関係
第6課	週末は何をしますか	週末にすることについて聞く	動詞のハムニダ体、並列
第7課	そんなに遠くありません	1週間の各曜日に何をするか言う	動詞・形容詞の否定文、時間と場所の助詞（から・まで）、形容詞
第8課	いつ行きますか	韓国にいつ行ってくるのか、飛行機代はいくらか聞く	同意の接辞、漢字語数詞の日付、曜日、値段
第9課	釜山までどうやっていきますか	釜山に行くことを伝え、名物や天気について聞く	動詞・形容詞・名詞文のヘヨ体
第10課	何時からですか	アルバイトの時間と回数について聞く	固有語数詞の時間、回数、年齢、人数、個数

各課の本文は、それぞれの関係性や役割が不明確な二人の会話で構成されており、誰と誰が、どこで、何のためにその会話をしているかが不明なものが多い。「ハンゲルⅠ」の【目的】と【到達目標】は、いかに言語知識を覚えたかといった言語知識重視ではなく、身近な話題について韓国語で運用できるといったいわば言語行動重視であるため、テキストで扱われている言語知識を、学生たちが身近に感じられる場面・状況、適切な語彙・表現に置き換えながら、会話例などをライトして授業を行っている(ヤン2020)。

このような問題意識を持って、実際の授業では、授業の【目的】である「身近な話題（あいさつ、日常生活や学校生活、買い物や店での注文、好きなものごとなど）について伝え合うことができる」を具体化し、「あいさつ、自己紹介、物の名前や場所の名称、注文、スケジュールと週末の過ごし方、夏休みの予定、地元の紹介」などを取り入れシラバスを作成し、教室活動を行ってきた。具体的には、第1課の「あいさつ、自己紹介」を「韓国人留学生とあいさつする」「韓国語の先生とあいさつする」などの場面に置き換えたり、第3課の「指差しで何かを聞く」であれば「飲食店でメニューを見て店員を呼んで注文する」に置き換えたり、第4課の「約束があるかないか」を「今日の午後、授業があるかないか」に置き換えたりし、かつ、課の順番を必要に応じて変えたりしていた。いままでも学生たちが身近に感じ、興味・関心を持ちそうな話題などを組み込んで指導にあたってきた。

しかし、今回のニーズ調査は、これらが果たして学習者のニーズに合っているものなのか再考するきっかけになった。アンケートの質問6の「韓国語を活用したい場面・状況は何ですか」に

対し、「旅行、K-pop、映画・ドラマ」へのニーズが多く挙がっており、筆者が「身近な話題」として、大学にいる韓国人留学生との会話や東京・新大久保に買い物や食事に行くことなどの場面などを想定していたこととは違っていることがわかった。

これらの課題と以下に挙げる「ハングル I」の共通テキストを用いた場合の課題を合わせて、調査でわかったニーズを活かして、どのような改善策が考えられるかを述べたい。手順としては、特にニーズの高かったものを二つのグループ【ニーズA】と【ニーズB】とし、それらの下に、【現行の課題】と【今後の改善策】を並べて示す。

まず、ニーズAとこれを活かした二つの改善策を示す。

【ニーズA】

質問5から「韓国語を使ってコミュニケーションを図りたい」ということが、
質問6から「旅行に関する場面・状況」で韓国語を活用したいということがわかった。

①テキストにおける会話の人物設定と場面・状況について

【現行の課題①】

構造シラバスであり、言語知識重視である。本文で扱われている場面・状況がどのような人間関係の二人が対話しているのか不明な場合が多い。

【今後の改善策①】

韓国に旅行に行った場面で、旅行者としてショッピングや飲食店で買い物や注文をする状況を積極的に取り入れる。

②テキストで扱われている語彙・表現について

【現行の課題②】

初級韓国語の基本的な言語知識（語彙や文法）が網羅されているが、「家族・親族名称、職業名、家具の名称」など実際の使用場面を考えると頻度が低いものが多い。また、動詞や形容詞についても初級語彙は一通り扱われているが、活用の体系性が重視されるあまり、それらの活用形を用いた会話例が思いつかないものもある。

【今後の改善策②】

韓国に旅行に行った場面で、旅行者としてショッピングや飲食店で買い物や注文などに使用できる語彙や表現を積極的に取り入れる。

課題①と②は、いずれも【ニーズA】を活かすことで、改善策①と②のような取り組みが可能になると思われる。

次に、ニーズBとこれを活かした改善策を示す。これは課題③の改善策③に活かせるであろう。

【ニーズB】

質問4から「ポップカルチャー」が履修のきっかけとなり、
質問5から「韓国のポップカルチャーを楽しみたい」というニーズが高く、
質問6から韓国語を「K-popの歌詞等」を理解するために使いたく、
質問7から「K-pop」と「映画・ドラマ」の興味・関心が極めて高いということがわかった。

③テキストの会話例に興味をわきにくいことについて

【現行の課題③】

テキストの会話例が本授業の【目的】である「身近な話題(あいさつ、日常生活や学校生活、買い物や店での注文、好きなものごとなど)について伝え合うことができる」の内容にそぐわないものが多いため、学習者の興味をわきにくい。

【今後の改善策③】

学習者の興味は、旅行とポップカルチャー（K-pop、映画・ドラマ）が大多数なので、旅行した際の韓国の店員との雑談や買い物などの会話例を取り入れる。ポップカルチャーは、ある程度の長さの会話例は難しいが、K-popアイドルのSNSの発言やコメント、映画・ドラマの短い台詞などを取り入れ興味・関心を持ってもらう機会にする。

以上、調査で明らかになったニーズを活かした授業の改善策を三つ示した。コースデザイン全体を変更したり、テキストを変更したりすることをしなくても、このような部分的な工夫で、学習者の動機を高め学習意欲を向上・維持することは可能ではないだろうか。

V. おわりに

今回のニーズ調査をある程度継続して行っていくことで、将来的にはコースデザインの見直しも可能であろうと思われる。山取（2005）は、大学におけるこれからの第二外国語教育の意義の一つとして「英語以外の外国語を学習する「実用」的意義は、グローバル化の進展によっても決して低下するものではなく、むしろインターネットの普及や国際交流の活発化とともにさらに高まることが予想される」と指摘し、英語以外の外国語学習の実用面をにも力を入れるべきであると述べている。学習者のニーズを吸い上げ取り込むことと、それが大学における第二外国語科目としての「韓国語」のあり方にどのような影響や反響を及ぼすかは未知数である。しかし学習者のニーズを考慮することで、言語知識だけにととまらず、言語運用をも見据えた、より楽しく学べる韓国語の授業が提供できるのではないだろうか。

（やん じょんよん・群馬県立女子大学地域日本語教育センター専任講師／
高崎経済大学非常勤講師）

【参考文献・教材】

- 高橋洸太郎・高嶋幸太(2018)「学生が望む大学における良い第二外国語教育—ある私立大学における自由記述データと獲得率を用いた分析から—」,『教育心理学研究』,日本教育心理学会,66,p.95-106
- 崔文姬(2016)「韓国語学習者の学習ピラーフに関する一考察」,『熊本県立大学文学部紀要』,22,p.111-136
- 都恩珍(2013)「韓国語教育に関する研究(1) 韓国語学習者調査を通して」,『Journal of the School of Liberal Arts』,5,桜花学園大学学芸学部,p.55-72
- 山取清(2005)「第二外国語教育の現在と未来」,『語学教育部ジャーナル=Kinki University Department of Language Education journal』,近畿大学語学教育部, p.77-89
- ヤン・ジョンヨン(2020)「オンライン授業による第二外国語教育の可能性と課題—初級「韓国語」授業実践を例に一」,『地域政策研究』第23巻第2号,高崎経済大学地域政策学会(印刷中)
- <教材>
- 生越直樹・曹喜澈(2011)『ことばの架け橋』,白帝社
- 金順玉・阪堂千津子(2014)『最新チャレンジ!韓国語』,白水社
- 櫻井正明監修(2011)「韓国語会話55の鉄則表現」,三修社
- 新大久保語学院・李志暎(2010)『できる韓国語 初級I <新装版>』,DEKIRU出版
- 李淑炫(2011)『チェミナ韓国語—自然に身につく会話と文法』,白帝社
- 李昌圭(2012)『韓国語へ旅しよう 初級』,朝日出版社
- 山崎玲美奈(2017)『超入門!書いて覚える韓国語ドリル』,ナツメ社

【註】

- 1) 本稿では「韓国語」「ハングル」の2つの名称が使用されているが、高崎経済大学の科目名は「ハングル」であるため、言語の一般名称として「韓国語」を、科目名として「ハングル」を用いる。
- 2) 高崎経済大学の経済学部は、英語または日本語を「外国語科目」、それ以外の言語を「言語系科目」に分類している。また、地域政策学部では英語や日本語を含むそれ以外の外国語を「外国語科目」としている。本稿では用語の混乱を避けるため、総称として「第二外国語科目」という用語を用いる。
- 3) 【参考文献・教材】の<教材>を参照されたい。